

## マスコミ各位

平成29年4月25日（火）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担 当：山内、仁平

電 話：098-866-2215

# ゴールデンウィークにおける感染症対策について

## 1 概要

ゴールデンウィークは、レジャーなど野外活動を行う方や海外へ渡航される方が多い時期です。これらの活動の中で感染症にかかることなく、安全で快適に過ごすことができるよう、県内や海外で注意すべき感染症及びその予防対策について、情報提供します。

## 2 レプトスピラ症

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラ (*Leptospira interrogans*) を起因病原体とする感染症です。病原性レプトスピラは、ネズミやマングースなど野生動物の腎臓に潜んでおり、尿中に菌が排せつされ、それにより汚染された土壌や水と接触する際に、皮膚の傷、鼻や目の粘膜を通して感染します。ヒトからヒトへの感染はありません。

県内では、主に河川でのレジャー等の際に感染したと考えられる患者の発生がみられます。2016年は集団事例の発生もあり、統計のある2003年以降、最多の年間報告数となっています。

臨床症状：頭痛、発熱（38℃以上）、筋肉痛・関節痛、結膜充血。重症になると、腎機能障害、黄疸などの症状が現れ、治療しないと死に至ることもある。

潜伏期間：3～14日

治 療：ペニシリンやストレプトマイシンなどの抗生物質が有効とされている。

感染症法分類：4類感染症

### 【予防方法】

1. 皮膚に傷がある場合は、河川での遊泳を控える。皮膚に傷がある場合、感染しやすくなることが知られている。
2. 河川や滝などの生水はそのまま飲まない。
3. 水田、山林で作業をする場合は、長靴や手袋を使用し、土や水との直接的な接触を避ける。
4. 捕獲したネズミなど、素手での野生動物との接触をさける。

※川遊びをした後や、畑、水田、山林などで作業した後、3～14日以内に発熱、頭痛、筋肉痛などの症状がでたら、すぐに医療機関を受診し、川遊びなどの状況を伝えてください。

## 【参考】

年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
全国	16	7	17	24	34	42	15	22	26	30	29	48	33	76
沖縄	16	7	7	4	21	28	7	10	7	6	7	28	13	43

※レプトスピラ症は2003年11月に4類感染症に指定

### 3 ダニ媒介性感染症

「つつが虫病」は、2008年以降、宮古保健所管内にて発生し、2016年は、2008年以降、最多の年間報告数となっています。沖縄本島においては、2010～2012年に「日本紅斑熱」の発生があり、2016年には「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」の県内初事例が発生しました。

これらはいずれもダニに咬まれることにより、ダニ体内の病原体に感染します。そのため、県民の皆様は、ダニに咬まれないための予防策の実施をお願いします。

#### 【つつが虫病とは】4類感染症

つつが虫病は、つつが虫病リケッチア（*Orientia tsutsugamushi*）を起因病原体とし、山野に入り病原体を保有するダニ（ツツガムシ）に刺されて感染する。ヒトからヒトへの感染はない。

臨床症状：発熱（38℃以上）、リンパ節腫脹、発疹、刺し口。

潜伏期：5～14日

治療：テトラサイクリン系の抗生物質等による治療。一般に予後良好。

発生状況：我が国では北海道を除く全都府県から患者が報告され、ここ数年は年間300～400人の患者が毎年報告されている。

#### 【重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは】4類感染症

SFTSは、SFTSウイルスを起因病原体とし、病原体を保有するマダニに刺されて感染するのが主だが、患者血液・体液との接触による感染も報告されている。

臨床症状：発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が多く、多くの症例で認められ、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出欠症状など

潜伏期：6～14日

治療：対症療法。致死率は6.3～30%と報告されている。

発生状況：我が国では西日本を中心に、平成29年3月29日の時点で230名の患者が報告されている。

#### 【日本紅斑熱とは】4類感染症

日本紅斑熱は、リケッチア・ジャポニカ（*Rickettsia japonica*）を起因病原体とし、病原体を保有するマダニに刺されて感染する。ヒトからヒトへの感染はない。

臨床症状：高熱、発疹、刺し口が主要な徴候。

潜伏期：2日～10日

治療：本症を早期に疑い適切な抗菌薬（テトラサイクリン系の抗生物質等）を投与することが極めて重要。

発生状況：我が国では特に太平洋側の温暖な地域にみられ、発生時期に地域差がみられるものの、全国的に春～秋の長い間注意が必要である。

**【予防方法】：ダニに咬まれないことが重要です。**

1. 山野に入る際には、肌の露出を少なくし、防虫スプレーを適宜使用する。
2. むやみに地面に腰を下ろしたり寝転んだりしない(座る時は敷物を使う)。
3. 脱いだ服を草むらに放置しない。
4. 帰ったらすぐに入浴(シャワー)する。
5. 着用した服は使い回さず、その日で洗濯する。
6. 山林や野原に立ち入って1～2週間後発疹や発熱の症状が現れたら、すぐに医療機関で受診する。
7. 吸血中のダニを見つけた時は、無理にとろうとするとダニの一部が皮膚内に残る可能性があるため、できるだけ医療機関で処置を行う。

**【参考】県内のダニ媒介感染症発生状況**

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	合計
つつが虫病	1		1	2		1	2	4	10	21
日本紅斑熱			1	1	1					3
SFTS									1	1

※2008年の「つつが虫病」1例は県内初報告例

※2010年の「日本紅斑熱」1例は県内初報告例

※2016年の「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」1例は県内初報告例

#### 4 海外に行かれる方へ

海外では、国内ではみられない動物や蚊・ダニなどが媒介する感染症が流行している地域があります。まずは事前に現地の感染症の発生状況を調べ、上述した対策に加え、下記の対策をとるようにお願いします。

1. むやみに動物にふれない。
2. 生の食べ物、水は飲食しない。
3. 予防接種が受けられる感染症に対しては、事前に医療機関に相談する。
4. 食事の前や宿泊施設へ戻った際には、必ず「手洗い」「うがい」をする。

また、帰国時に体調に不安がある方は検疫担当係官へ相談し、帰国後に体調を崩された方は、早

期に医療機関を受診し、渡航先や現地での活動内容などを報告するようにしてください。

## 5 県内外の感染症情報について

沖縄県感染症情報センター

<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html>

国立感染症研究所感染症疫学センター <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>

厚生労働省検疫所 <http://www.forth.go.jp/>

厚生労働省「ゴールデンウィークにおける海外での感染症予防について」

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html)